



プライバシーポリシーの設定

- [デフォルトのプライバシーポリシーの設定, 1 ページ](#)
- [許可例外リストまたは拒否例外リストへの内部ユーザの追加, 3 ページ](#)
- [許可例外リストまたは拒否例外リストへの外部ユーザの追加, 5 ページ](#)
- [許可例外リストまたは拒否例外リストへの外部ドメインの追加, 6 ページ](#)

デフォルトのプライバシーポリシーの設定

プライバシーポリシーを使用すると、プレゼンスステータスの確認と自分へのインスタントメッセージ (IM) の送信を実行できるユーザを指定できます。今回のリリースの IM and Presence でサポートしている連絡先リストのルールでは、ユーザが連絡先リスト (監視対象) に含まれている場合、ステータスの表示権限が明示的に拒否されていない限り、そのユーザはデフォルトでプレゼンスステータスを確認できます。

したがって、プライバシーポリシーを使用して、ユーザやドメインを許可および拒否します。次のオプションを使用すると、組織レベルでプライバシーポリシーを設定したり、ユーザに対する特定の要求ごとにプライバシーポリシーを設定することが可能です。

- **許可(Allow)** : デフォルトで、ユーザ/ドメインによるプレゼンスステータスの確認とインスタントメッセージの送信が許可されます。ただし、そのユーザ/ドメインを拒否リストに明示的に追加していない場合に限られます。許可プライバシーポリシーを設定できる対象は、内部ユーザと内部ドメインだけです。このオプションは、外部 (フェデレーテッド) ユーザ/ドメインに対して使用できません。
- **ブロック(Block)** : 拒否されたユーザ/ドメインは、プレゼンスステータスの確認とインスタントメッセージの送信を実行できません。拒否されたユーザのプレゼンスステータスは、常に [応対不可(Unavailable)] と表示されます。ブロックプライバシーポリシーは、内部および外部 (フェデレーテッド) のユーザ/ドメインに対して設定できます。
- **確認(Ask Me)** : 確認プライバシーポリシーは、特定のユーザ/ドメインからのプレゼンスステータスおよび IM の交換を明示的に拒否または許可するように、(要求を介して) ユーザに促します。クライアントアプリケーションは、サブスクリプションを承認または拒否するよ

うにユーザに要求します。確認プライバシーポリシーを設定できる対象は、外部（フェデレーテッド）ユーザおよびドメインだけです。これは、外部連絡先または外部ドメインが、ユーザの許可リストと拒否リストのいずれにも含まれていない場合に限られます。

手順

ステップ 1 [ユーザ オプション(User Options)] > [プライバシーポリシー(Privacy Policies)] を選択します。

ステップ 2 次のいずれかのオプションを選択します。

目的	手順
<p>プレゼンスステータスの確認とインスタントメッセージの送信をすべての内部ユーザに対して許可する場合（拒否例外リストに明示的に追加された内部ユーザ/ドメインは除く）。</p> <p>(注) このポリシー設定の例外については、このトピックの「トラブルシューティングのヒント」の項を参照してください。このポリシーでは、外部ユーザに対してプレゼンスステータスの確認が許可されません。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 [内部ユーザ(所属会社/組織内)(Internal users (within your company/organization))] ドロップダウンメニューから [許可(Allow)] を選択します。 2 (オプション) このモジュールで説明されている手順の後で、拒否例外リストに内部ユーザを追加します。「次の作業」を参照してください。
<p>プレゼンスステータスの確認とインスタントメッセージの送信をすべての内部ユーザに対して拒否する場合（許可例外リストに明示的に追加された内部ユーザは除く）。</p> <p>(注) このポリシーでは、外部ユーザによるプレゼンスステータスの確認は拒否されません。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 [内部ユーザ(所属会社/組織内)(Internal users (within your company/organization))] ドロップダウンメニューから [ブロック(Block)] を選択します。 2 (オプション) このモジュールで説明されている手順の後で、許可例外リストに内部ユーザを追加します。「次の作業」を参照してください。
<p>プレゼンスステータスの確認とインスタントメッセージの送信をすべての外部ユーザに対して拒否する場合（許可例外リストに明示的に追加された外部ユーザは除く）。</p> <p>(注) このポリシーでは、内部ユーザによるプレゼンスステータスの確認は拒否されません。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 [外部ユーザ(他のすべてのユーザ)(External users (all others))] ドロップダウンメニューから [ブロック(Block)] を選択します。 2 (オプション) このモジュールで説明されている手順の後で、許可例外リストに外部ユーザを追加します。「次の作業」を参照してください。

目的	手順
<p>外部ユーザに対する独自の許可/拒否ポリシーの設定を ([確認(Ask Me)] 要求によって) すべてのユーザに求める場合 (許可/拒否例外リストに明示的に追加された外部ユーザは除く)。</p> <p>(注) このポリシーでは、内部ユーザによるプレゼンスステータスの確認は拒否されません。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 [外部ユーザ(他のすべてのユーザ)(External users (all others))] ドロップダウンメニューから [確認(Ask Me)] を選択します。 2 (オプション) このモジュールで説明されている手順の後で、許可/拒否例外リストに外部ユーザを追加します。「次の作業」を参照してください。

ステップ 3 [デフォルトの保存(Save Defaults)] を選択します。

トラブルシューティングのヒント

IM and Presence サーバは別のユーザの連絡先リストに含まれているユーザに対し、プレゼンスステータスの表示権限を自動的に許可します。すべての内部ユーザに対して許可するポリシーの設定の例外として、IM and Presence サーバの自動認証をオフにして、グローバルドメインとローカルドメインの両方のデフォルトを [許可(Allow)] に設定した場合、ユーザはサブスクリプション要求を承認または拒否するように求められることに注意してください。これに該当するのは、ローカルドメインの確認シナリオです。IM and Presence の自動認証設定の詳細については、『*Deployment Guide for IM and Presence Service on Cisco Unified Communications Manager*』 (Cisco.com) を参照してください。

次の作業

- 内部/外部ユーザに対して設定されているデフォルトの許可/拒否プライバシーポリシーを組織レベルで上書きする必要がある場合は、以降のトピックでユーザの例外リストを設定する方法について参照してください。

許可例外リストまたは拒否例外リストへの内部ユーザの追加

この手順に従うと、許可リストおよび拒否リストの形式で、全般プライバシーポリシーに対する例外を管理できます。組織レベルで設定したデフォルトのプライバシーポリシーに応じて、許可リストまたは拒否リストのいずれかを編集できます。この方法では、デフォルトのポリシーの動作を上書きして、組織内の特定のユーザを許可リストまたは拒否リストに追加できます。

- 特定のユーザの許可ポリシーを設定すると、そのユーザは全般ポリシーで拒否されている場合でも、プレゼンスステータスを確認して、インスタントメッセージを送信できるようになります。

- 特定のユーザの拒否ポリシーを設定し、そのユーザが Cisco クライアント (Cisco Jabber バージョン 8) を使用しているとき、全般ポリシーで許可されている場合でも、プレゼンスステータスの確認や IM の交換を実行できなくなります。連絡先リストのユーザは、例外リストで明示的に拒否されていない限り、常に許可されます。サードパーティ製の XMPP クライアントによっては、設定したポリシーに関係なく、IM の送受信を実行できる場合がありますことに注意してください。

はじめる前に

デフォルトのプライバシーポリシーを設定します。

手順

-
- ステップ 1** [ユーザ オプション(User Options)] > [プライバシーポリシー(Privacy Policies)] を選択します。
- ステップ 2** [プライバシーポリシー(Privacy Policy)] ウィンドウの [ユーザ設定(User Settings)] で、[ユーザの追加(Add User)] を選択します。
- ステップ 3** 次のいずれかの操作を実行します。
- ユーザがプレゼンスステータスを確認できるようにするには、[許可(Allow)] を選択します。
 - ユーザがプレゼンスステータスを確認できないようにするには、[ブロック(Block)] を選択します。
- ステップ 4** 内部ユーザの有効なユーザ ID を入力します。このユーザ ID は、<userid@domain> という形式で、内部ネットワークに存在する必要があります。
- ステップ 5** [ローカルドメイン(Local domain)] を選択します。
- ステップ 6** [追加(Add)] を選択して、内部ユーザをローカルドメインに追加します。
-

トラブルシューティングのヒント

- フェデレーテッドユーザは、電子メール ID または標準 JID のいずれかを使用してローカルユーザを追加できます。使用する ID は、管理者がドメインの電子メール ID を有効/無効のどちらにしているかによって異なります。
- 許可/拒否リストにユーザを追加すると、その詳細がこのウィンドウのテーブルに表示されません。許可/拒否リストからユーザを削除するには、そのユーザのチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除>Delete Selected)] を選択します。

許可例外リストまたは拒否例外リストへの外部ユーザの追加

この手順に従うと、許可リストおよび拒否リストの形式で、全般プライバシーポリシーに対する例外を管理できます。組織レベルで設定したデフォルトのプライバシーポリシーに応じて、許可リストまたは拒否リストのいずれかを編集できます。この方法では、デフォルトのポリシーの動作を上書きして、組織外の特定のユーザを許可リストまたは拒否リストに追加できます。

- 特定のユーザの許可ポリシーを設定すると、そのユーザは全般ポリシーで拒否されている場合でも、プレゼンスステータスを確認して、インスタントメッセージを送信できるようになります。
- 特定のユーザの拒否ポリシーを設定すると、そのユーザは（確認要求に肯定の応答をして）全般ポリシーで許可されている場合でも、プレゼンスステータスの確認やインスタントメッセージの送信を実行できなくなります。

はじめる前に

デフォルトのプライバシーポリシーを設定します。

手順

- ステップ 1** [ユーザ オプション(User Options)] > [プライバシーポリシー(Privacy Policies)] を選択します。
- ステップ 2** [プライバシーポリシー(Privacy Policy)] ウィンドウの [ユーザ設定(User Settings)] で、[ユーザの追加(Add User)] を選択します。
- ステップ 3** 次のいずれかの操作を実行します。
 - ユーザがプレゼンスステータスを確認できるようにするには、[許可(Allow)] を選択します。
 - ユーザがプレゼンスステータスを確認できないようにするには、[ブロック(Block)] を選択します。
- ステップ 4** 内部ユーザの有効なユーザ ID を入力します。このユーザ ID は、<userid@domain> という形式で、内部ネットワークに存在する必要があります。
- ステップ 5** ユーザが属している、次のいずれかのドメインを選択します。
 - フェデレーテッド ドメイン
 - カスタム ドメイン：カスタム ドメインは、フェデレーテッド ドメイン リストに含まれていない外部ドメインです。
- ステップ 6** 次のいずれかの操作を実行します。

次を選択した場合...	手順
フェデレーテッド ドメイン	フェデレートするドメインをドロップダウン リストから選択します。
カスタム ドメイン	ユーザのドメインを入力します。 (注) たとえば、「mycompany.com」などで す。

ステップ 7 [追加(Add)] を選択します。

トラブルシューティングのヒント

許可/拒否リストにユーザを追加すると、その詳細がこのウィンドウのテーブルに表示されます。許可/拒否リストからユーザを削除するには、そのユーザのチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除>Delete Selected)] を選択します。

許可例外リストまたは拒否例外リストへの外部ドメインの追加

はじめる前に

外部ドメイン全体を許可または拒否することができます。外部ドメインを拒否した場合、そのドメイン内のユーザを許可リストに追加していなければ、該当する外部ユーザからのプレゼンスステータスの表示要求は拒否されます。

手順

- ステップ 1** [ユーザ オプション(User Options)] > [プライバシー ポリシー(Privacy Policies)] を選択します。
- ステップ 2** [プライバシー ポリシー(Privacy Policy)] ウィンドウの [ユーザ設定(User Settings)] で、[ドメインの追加(Add Domain)] を選択します。
- ステップ 3** 次のいずれかの操作を実行します。
 - ユーザがプレゼンスステータスを確認できるようにするには、[許可(Allow)] を選択します。
 - ユーザがプレゼンスステータスを確認できないようにするには、[ブロック(Block)] を選択します。
- ステップ 4** 許可または拒否する、次のいずれかのドメインを選択します。
 - フェデレーテッド ドメイン

- カスタム ドメイン：カスタム ドメインは、フェデレーテッド ドメイン リストに含まれていない外部ドメインです。

ステップ 5 次のいずれかの操作を実行します。

次を選択した場合...	手順
フェデレーテッド ドメイン	フェデレートするドメインをドロップダウン リストから選択します。
カスタム ドメイン	ユーザのドメインを入力します。 (注) たとえば、「mycompany.com」などです。

ステップ 6 [追加(Add)] を選択します。

トラブルシューティングのヒント

許可/拒否リストにドメインを追加すると、その詳細がこのウィンドウのテーブルに表示されます。許可/拒否リストからドメインを削除するには、そのドメインのチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除(Delete Selected)] を選択します。

